

海外安全対策情報（令和5年度第2四半期）

1 社会・治安情勢

- (1) 一般的には、対日感情は概して良好ではあるものの、犯罪発生率は高く、レストランやホテル、観光地等で邦人が被害に遭う事件も発生している。
- (2) 昨今、当館管轄内においても強盗・窃盗事件が多く発生しており、特に、これまで比較的安全とされていた邦人の多く住む地域や高級住宅街において路上強盗や車上荒らし、集団によるスリ、置き引きの被害が発生している。また、高級百貨店や高級ブランド店を狙った集団による強盗事件、尾行強盗（目をつけた人物を尾行し、暴行・脅迫により金品を奪う。ATMを利用した後や、高級ブランドの衣服や腕時計を着用している人がターゲットとなるケースが増えている。）事件及び造園業者を装った人物によるゲート付コミュニティ内での強盗事件も発生している。更に、バスや電車といった公共交通機関においてもホームや車内で窃盗や傷害事件等が発生している。
- (3) アジア系住民に対する偏見による嫌がらせ、脅迫、暴行等の行為、いわゆるヘイト関連事案も発生している。
- (4) 以上のような状況の下、一般的な安全対策と同様、犯罪発生率の高い地区を訪れない、夜間の1人歩きは避けライドシェア等を利用する、できる限り複数名で行動する、高価な物を持ち歩かないようにする、不審な場所や人物を確認した場合は速やかにその場を離れる等、身の安全を優先して行動することが重要である。更に携帯電話やイヤホンを使用しながらの歩行は注意力が欠け、被害に遭う可能性が高いため、歩行中のイヤホンは使用しない、少なくとも片耳で聞くなど、常に周囲の状況が分かる状態を保つことも重要である。また、バスや電車といった公共交通機関を利用する際には常に周囲の状況に留意し、可能な限り複数名で乗車する、貴重品から目を離さない、夜間の利用は極力控える等注意して利用することが重要である。

また、各種報道や当館ホームページ等の情報を通じて、当地の治安状況の変化には常日頃から注意する心構えを持つことが重要である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) ロサンゼルス市警察の発表する統計によると、2023年1月1日から同年9月30日までの同市警察管内の総犯罪発生件数は前年同時期と比較し、0.4%減の100,306件となっている。殺人事件発生件数は24.4%減の235件、暴行、強姦、強盗等を含めた凶悪犯罪の総発生件数は6.8%減の22,533件となっている。

住居侵入、車両盗難及び車上荒らし等、財物目的の犯罪については、発生件数77,773件と昨年と比較し1.6%増加している。

また、スキッドロウ、サウスロサンゼルス及びコンプトンといった地域では犯罪発生件数が多い傾向にあるため、昼夜問わず、これらの地域への立ち入り、また、その他の地域においても夜間帯の行動等には注意が必要である。

1月1日から9月30日までの罪種別犯罪件数（ロサンゼルス市警察管轄内）は、以下のとおり。

事件種別	2023年（件）	2022年（件）	同期比（%）
殺人	235	311	-24.4
強姦	989	1,175	-15.8
強盗	6,388	7,097	-10.0
暴行	14,921	15,600	-4.4
凶悪犯罪計	22,533	24,183	-6.8
住居侵入	11,017	11,098	-0.7
車両盗難	19,119	19,905	-3.9
車上荒らし	22,412	23,519	-4.7
窃盗	25,225	22,051	14.4
財物目的犯罪計	77,773	76,573	1.6
合計	100,306	100,756	-0.4
銃撃事案	2,114	2,451	-13.7
銃撃被害者	906	1,076	-15.8

(2) 日本人被害事案（一般犯罪）

財物目的の犯罪に巻き込まれる事案が多発しており、当館に寄せられる事案として、車上荒らし及び置き引きに遭うケースが多い。特に地元警察の情報によると観光地においてレンタカーが狙われるケースが多く発生している。外出時の貴重品管理を徹底することはもちろん、短時間であっても車を離れる際は、外から見えやすい所に荷物を置かず、決して旅券や現金等の貴重品類を車内に放置しないよう心がける必要がある。また、持ち歩く必要のないものをトランクに隠す行為は出発前に済ませるなど、できるだけ人目に触れない場所で行う。

また、当地治安機関や行政機関、実在する株式会社等を装い、電話、メール、テキスト及びオンライン（SNSやアプリ）を利用したソーシャルセキュリティナンバー、運転免許番号等、個人情報の窃取事例が複数報告されている。安易に個人情報を教えないことが重要であり、相手方とのやりとりに不審な点がある場合には、知人への相談や、インターネット等で同種事例がないか等を検索し、情報収集することも有効である。また、万が一、犯罪被害に遭ってしまった場合、被害を最小限にとどめ、再発防止策を徹底させる必要があるため、警察に被害を申告することが重要である。

(3) 特異な事件・事故

ア ガソリンスタンドにて給油中、集団に襲われ車両を盗まれる事件の報告有り。貴重品は車内に放置せず常に携帯し、車の鍵を掛けた状態で給油を行う、日中に給油を済ませる等、周囲への注意を怠らない。

イ 出先から家まで後をつけられ、家に到着した際に強盗被害に遭う「Follow home

robberies』といった事件が増えている。帰宅する道順をランダムに変える、周囲に怪しい車両や人物がいないか確認しつつ駐車する、可能であればバックで駐車する（万が一の際に逃げやすい）等、車両から屋内に移動する際も注意する。

3 テロ・爆弾事件発生状況

当館管轄地域内において、テロ等に関する具体的な情報に接していない。

ただし、米国国土安全保障省が示しているとおおり、米国において、海外のテロ組織に感化された「ホーム・グロウン型」の暴力的過激主義者らによる脅威や国内の暴力的過激主義者らによるテロの脅威は存在している。

テロの標的となりやすい場所（観光施設、観光地周辺の道路、記念日・祝祭日等のイベント会場、レストラン、ホテル、ショッピングモール、スーパーマーケット、ナイトクラブ、映画館等人が多く集まる施設、教会・モスク等宗教関係施設、公共交通機関、政府関連施設（特に軍、警察、治安関係施設）等）を訪れる際は、予め非常口や避難経路を確認し、常に周囲の状況に注意を払う必要がある。

4 誘拐・脅迫事件発生情報

邦人を対象とした当該情報に接していない。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

トランス市内の日系飲食店において強盗事件が2件発生した。関係当局によると、本事件はアジアンヘイトとは関連がないとの見解であった。

6 参考情報

- (1) 当地犯罪発生状況マップ <https://www.crimemapping.com/>
- (2) 外務省「海外安全ホームページ」 <https://www.anzen.mofa.go.jp/>
(スマートフォン版) <https://www.anzen.mofa.go.jp/sp/index.html>
(モバイル版) <http://www.anzen.mofa.go.jp/m/mbtop.html>
- (3) 安全の手引き(2023年5月改訂版)
https://www.la.us.emb-japan.go.jp/pdf/Anzen_Tebiki_2023MayUpdates.pdf